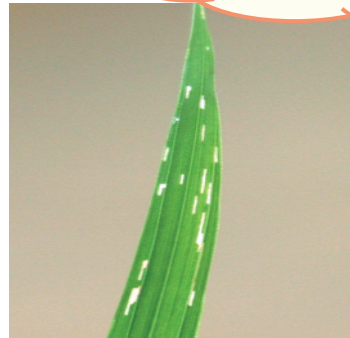


# 水稻害虫のフタオビコヤガが急増中です 発生状況に注意して上手に防除しましょう

## 【フタオビコヤガの被害のようす】



### 幼虫が水稻の葉を食べます



若い幼虫（1～2齢）  
の食害のようす

- ・ 白いカスリ模様を  
残して食べます
- ・ 食害量は少ないです

成長した幼虫(3齢以降)の食害のようす

- ・ 葉を階段状に食べます。
- ・ 成長するにつれて食害量が急激に増えます。

## 【フタオビコヤガの幼虫と成虫】



シャクトリムシのように歩きます。  
約2.2センチぐらいまで成長します。



体長約1センチの小さな蛾です。

## フタオビコヤガの上手な防除方法

- ・ **育苗箱施用剤**と本田防除(粉剤等)の組み合わせがおすすめの防除体系です

### スピノサドを含む育苗箱施用剤を使用した場合

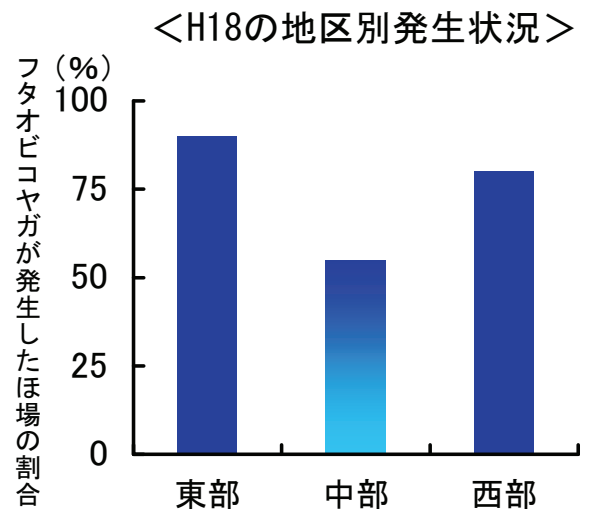
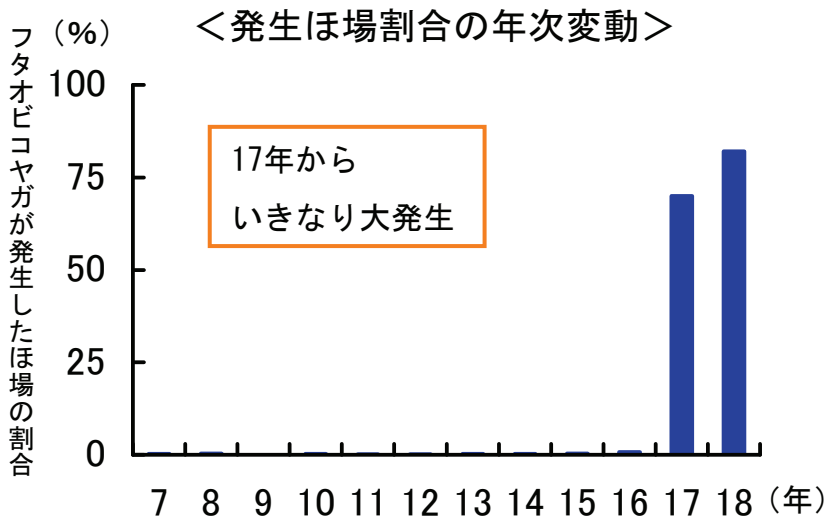
育苗箱施用剤＋穂ばらみ期防除(他の病害虫との同時防除も可能)

### フィプロニル粒剤(プリンス粒剤)を使用した場合

育苗箱施用剤＋発生状況に応じた追加防除  
＋穂ばらみ期防除(他の病害虫との同時防除も可能)

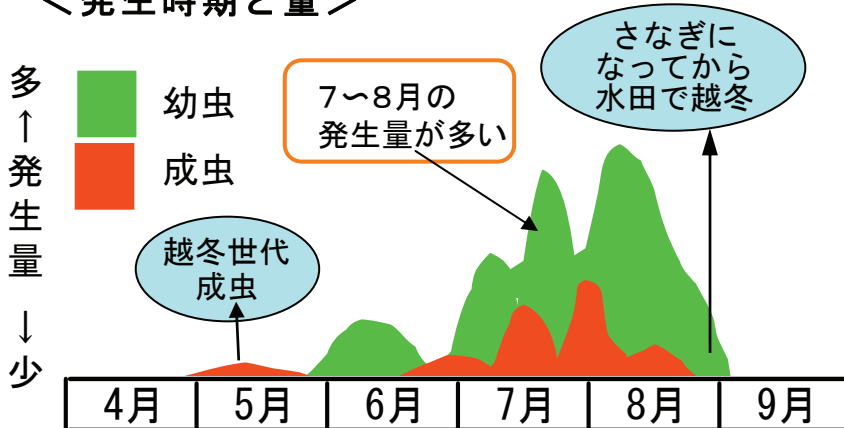
- ・ フタオビコヤガに農薬登録されている**粉剤の防除効果は高い**です

## 【フタオビコヤガの発生状況】



## 【フタオビコヤガの発生生態】

### ＜発生時期と量＞



### ＜多発しやすい条件＞

- ・ほ場の湿度が高い  
曇天や雨の日が続く年  
風通しの悪い水田や地域  
繁茂度が高く、株間の湿度が高い
- ・イネの葉色が周辺より濃い  
遅植、中生品種は要注意
- ・越冬するさなぎの量が多い  
H17～18に発生が多かった地域は要注意

## 【フタオビコヤガを防除する際の留意事項】

①追加防除のめやす(暫定版)は下記の条件がすべて満たされた場合です。

- ・発生が主体が約1.2cm以上の幼虫
- ・被害株率が90%以上
- ・食害面積率が10～20%の場合

②スピノサドを含む育苗箱施用剤を使用したほ場においても、周辺ほ場での発生が非常に多い場合には、穂ばらみ期以前の追加防除が必要となるので、発生状況には十分注意してください。

③育苗箱施用剤の選定にあたっては、他の初中期害虫、いもち病および紋枯病についても考慮し、地域の実情に合った薬剤を選択してください。

(使用する農薬については、お近くの農業改良普及所、JA等にご相談ください。)

④育苗箱施用剤および粉剤とも薬量が不足すると防除効果が低下するので、必ず規定量を丁寧に散布してください。

問い合わせ先

鳥取県農業試験場 環境研究室

(電話 0857-53-0721)

本書から転載複製する場合には

必ず農業試験場の許可を受けて下さい